「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0774　◇◆◇　　24/01/31

【　日本の政治情勢如何に、閉塞感続く可能性も　】

日本政治の閉塞感が強い。前回、筆者が日本政治の話を取り上げたのは、昨年 11 月 29 日付け。その際「何をやっても上手くいかず、国民の『岸田離れ』が著しい」――などとレポートしたのだが、当時はまだ、いわゆる「令和のリクルート事件」と揶揄される「裏金問題」も表立ってはいなかった。つまり、以降 2 ヵ月ほどで、政権を取り巻く状況は改善しているどころか、むしろ悪化している感を否めない。
そこで、以下で改めて日本政治が置かれている状況を一度レポートしておきたいと思う。

＜＜ 「青木の法則」など ＞＞

もはや一般的にも知られているものだが、政権の状況を見極める指標のひとつに「青木の法則（青木率）」というものがある。これは内閣官房長官もかつて勤めた自民党の青木幹雄氏が提唱したとされる考え方。ごく簡単にいえば「内閣支持率に自民党支持率」を足したものが「50」を下回ると、政権運営が厳しくなるとするもので、経験則を元にしているとも言われている。

これをもとに毎日新聞の最新調査（1 月 28 日発表）を見てみると、岸田内閣の支持率は驚くことに前回調査よりなんと 5 ポイントも増加しているが、それでも 21%。また自民党支持率も、何故か前回よりアップした結果ながら、やはり 23%にとどまっており、両者の合計は 44%に過ぎない。つまり、「青木の法則」的には危機的状況を依然として脱却出来ていないということになるのだが、1 月 1 日に起こった能登半島地震の影響もあってか、党内における倒閣ムードはあまり盛り上がっていないところが悩ましい。
知人である大手全国紙の政治部記者が指摘する「支持率は確かに低迷しているが、能登半島地震もあり選挙どころではない。結局のところ岸田首相のひとり勝ち。政治のボトルネック商状はしばらく続く」――可能性もありそうだ。

なお、こちらは意外に知らない方が多いようだが、先の「青木の法則」には、実は「第 1 の法則」と「第 2 の法則」があり、前述した話はすべて「第 1 の法則」を参考にしたもの。
では「第 2 の法則」は何かというと、「国政選挙における獲得議席数」に関する考え方で、具体的には「自民党現有議席に、直近の『青木率』をかけた数の近似値が獲得議席になる」とする内容だ。つまり、この考えからすると、仮に近い将来衆院選を実施した場合、自民党の獲得議席は現在の半分以下になることになるのだが、果たしてどうなのだろうか。確かに自民党もかなりヒドいが、立憲民主党をはじめとする野党サイドもパッとしない。そこまで大きく負け越すことは難しいようにも思えるのだが･･･。

＜＜ 次期首相候補 ＞＞

先でも書いたように、岸田内閣の支持率が低迷。もはや回復不能のレベルにまで達しているとの見方も少なくない。それでも「倒閣ムード」が何故か盛り上がっていないことはある意味確かなのだが、水面下では「次期首相候補」として様々な名前が浮上しているという。
巷間でも良く取り上げられる人物が中心ではあるものの、いま現在自民党そのものがスキャンダルまみれとなっているだけに、目先を変える人材として注目を急速に浴びているのが「小渕優子」氏だという。一部で評価が爆上がり。「女性初の首相候補として、今後本格的に取り沙汰される存在になる」（前述記者）との見方もあるようだ。

周知のように、小渕優子氏といえば、父親は元首相の小渕恵三氏。いわゆる「二世議員」で、2014 年に政治資金規正法違反のスキャンダルが発覚し、就任していた経産相の辞任を余儀なくされたことを覚えている方も多いと思われる。また、その際、証拠隠滅のために自身のパソコンのハードディスクをドリルで破壊した疑いがある、などと一部週刊誌で報じられ「ドリル優子」――なるあまり有り難くない二つ名を拝命していることも良く知られている話になるだろう。

いずれにしても、一時完全に消えたと思われた小渕優子氏だったが、昨年の自民党役員人事で 4 役のひとつ「選対委員長」として華麗に復活。そして、ここにきて次期首相候補、初の女性首相候補として名前がチラホラ囁かれる存在になっているのだという。
ちなみに、彼女が次期首相になるうえで、もっともネックになると考えられていたものが派閥の問題。小渕

優子氏は父親である小渕元首相がトップを務めたこともある「旧小渕派（現・茂木派＝平成研究会）」に所属していたが、「政治家として覚悟を持ってけじめとして判断した」と述べたうえで 26 日に同派へ退会届を提出したと伝えられている。つまり、これで最大ともいえる懸案事項はカタがついた格好で、首相候補への道がさらに一歩進んだ感があるといった声も聞かれていた。続報にも要注意だ。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter